

2026.3 Vol.123

ふれあい 茨城

CONTENTS

- 1 **協会事業**
第22回 日本発/世界発：青年のメッセージを開催しました
- 2-3 **GLOBAL VIEW**
茨城県地域日本語教育の体制づくり事業
6年間で振り返る
- 4-5 **交流の広場** わが町の外国出身リーダー
ACROSS CULTURE
- 6 **地球だより**
ゴールドとカカオの国、西アフリカのガーナは親日国
県だより
多言語による医療機関受診時のサポートを実施しています
- 7 **for you...** お知らせ
- 8 **Said & Did**

第22回 日本発/世界発：青年のメッセージを開催しました

12月12日(金)、ザ・ヒロサワ・シティ会館小ホールにて、第22回 日本発/世界発：青年のメッセージを開催しました。この大会は、高校生がグローバル社会への意見を発表するとともに、留学生との意見交換をとおして、世界に対する理解を深め、グローバル社会で生きる力と視点を養い、世界にはばたき貢献できる人材を育成することを目的としています。

第1部の第62回国際教育弁論大会—高校生のメッセージ—では、県内の高校生10名が国際社会に対し、考えていることなどを発表しました。

第2部の留学生シンポジウム—留学生のメッセージ—では、茨城県立鉾田第一高等学校のダフェル マシュー先生をコーディネーターとして、茨城の国際理解推進に積極的な留学生3名が出身国(中国、マレーシア、ベトナム)の紹介、留学の動機などを発表し、会場との質疑応答を行いました。最後に、日本の高校生や若者に向けたメッセージを発信しました。

会場には、一般参加者のほか、県内の10の高校から54名の高校生が聴衆として参加し、弁士の弁論を熱心に聞き入っていました。

上位入賞者は以下の通りです。

賞	受賞者・演題
茨城県知事賞	土浦日本大学中等教育学校1年 佐野 智武 「私たちは宇宙船地球号の乗組員—宇宙視座で未来を拓く—」
茨城県議会議長賞	鹿島学園高等学校2年 王 若桐／「留学は逃げではない、挑戦です」
茨城県教育委員会教育長賞	守谷高等学校1年 グエン ティ タオ アン 「小さな手に大きな希望を—家族と暮らす幸せのために—」

留学生シンポジウムのパネリストは以下の通りです。

名前	学校	出身国
馬 源	筑波大学博士課程	中国
グイ チン カン	茨城大学	マレーシア
グエン ティ ホアイトゥオン	流通経済大学	ベトナム



第1部 国際教育弁論大会 表彰式



第2部 留学生シンポジウム



GLOBAL VIEW

特集

茨城県地域日本語教育の体制づくり事業 6年間を振り返る

令和2年度より茨城県の受託事業として当協会が実施してきた事業について、その歩みをまとめました。
※紙面の都合により一部を抜粋して記載

取組に至る背景

- 令和元年に「日本語教育の推進に関する法律」が公布・施行され、翌年にはそれに基づく基本方針が閣議決定された。
- 文化審議会国語分科会「地域における日本語教育の在り方について(報告)」では、地方公共団体等における日本語教育の方向性が示された。
- 茨城県は「多文化共生の推進、外国人材に選ばれる県づくりのため、県内どこにおいても日本語学習の機会がえられる環境と関係機関の連携体制を構築すること」を目的として事業を開始。

令和2年度

- 県内4か所で事業の趣旨説明のための会議(関係者連絡会議)を開催
- 地域日本語教室空白地解消として、住民を対象に、多様な言語・文化に対する理解が深まり、多文化共生社会に向けた地域づくりのための日本語支援を目標とした研修を実施(NPO法人CINGAが文化庁委託により開発したカリキュラムを参考にした)。
- 県内の文化庁「地域日本語教育コーディネーター研修」受講者に声かけし、6名に地域日本語教育コーディネーターを委嘱。フォローアップ研修を実施し地域日本語教育に関する共通認識を深めたのち、課題解決活動を実施。

ピックアップ

「新しい下妻・坂東のための日本語支援を考える会」(日本語学習支援者の養成研修)

生活者としての外国人市民に寄り添い「多文化共生」、「相互理解」中心の活動を行う日本語学習支援者となることを目指し、講義・事例紹介や話し合いを通じて学んでいく5回の連続講座。

受講者の声

日本語支援は、日本語を教える人と教わる人という関係ではなく、お互いの文化を尊重し合う対等な関係でありたいということを学んだ。

(自分の考え方の変化として)相互理解の大切さを学び、これから意識していきたいと考えたこと。今まであまり意識していなかったと思う。

令和4年度

- 地域日本語教育推進員(日本語教育専門職)の設置により事業を効果的に推進
- 基礎日本語教育に関する議論の開始(ワーキンググループの開設)
- 日本語教育空白地解消支援(継続)
- 日本語学習支援者の養成研修(令和2年度からののべ受講者数が150名に到達)

ピックアップ

地域における日本語教育の実態把握・問題解決に向けた提言や地域日本語教育に関する会議・研修の企画・運営等を行う地域日本語教育推進員を茨城県国際交流協会に2名新規に配置した。地域日本語教育関係者連絡会議では、「外国人の声をきいてみよう」と題しワークショップ形式で議論した。円滑かつ忌憚ない議論を行うため、行政職員と支援者を別日で開催し、次年度にそれぞれの思いを共有した。

関係者連絡会議 参加者の声

安心・安全な社会づくり、地域活性化のためにも日本語教育の体制づくりを進めていく必要があることがわかった。(行政職員)

ボランティア団体と行政の連携が密になり、サポート体制が強化されることを願う。(支援者)

令和6年度

- 地域日本語教育関係者連絡会議の開催(継続)
シンポジウム形式で外国人、外国人雇用企業、日本語支援者、行政職員によるパネルディスカッションを開催
- 日本語学習支援者フォローアップ講座の開催(オンライン)
- 地域日本語教育コーディネーター派遣事業(継続)
令和5年度からののべ受講者数が400名超に
- 地域日本語教育人材の養成研修(日本語教師対象の地域日本語教育に関わるためのスキルアップ)
- 基礎日本語教育の実施(ファーストステップ、セカンドステップ開催)
地域の安心・安全のため、日本語に通じない外国人を対象とし、日本語教師が講師を務める基礎日本語教育のカリキュラムを作成し、レベルが異なるファーストステップ、セカンドステップの2コースをオンラインで開催。

ピックアップ

地域日本語教育人材の養成研修

受講者の声

地域で暮らす外国人に対する日本語学習支援がどのように行われているのかを具体的に知ることができた。参加者同士の意見交換を通じ、知識やつながりを得られたことで、理解が深まった。

令和7年度

- 地域日本語教育関係者連絡会議(継続)
- 地域日本語教育人材の養成研修(2コース:地域日本語教師、地域日本語教育コーディネーター)
- 基礎日本語教育の実施(全県対象オンライン開催、結城市共催での対面開催)
- 地域日本語教育コーディネーター派遣事業(継続)

ピックアップ 地域日本語教育コーディネーター派遣事業の内容例 (令和7年度派遣から一部抜粋)

地域	申請者	対象・内容	内容の分類	時間
県西	国際交流協会	定期総会での講演	地域における多文化共生	1.0時間
鹿行	市町村	日本語教室支援者との意見交換・助言等	日本語支援のフォローアップ	2.5時間
県南	市町村	市職員対象やさしい日本語研修	窓口対応の改善	2.0時間
県南	日本語教室	日本語教室支援者等向け助言等	教材の情報提供、教室づくり支援	2.0時間
県西	国際交流協会	日本語教室の運営面での助言	日本語教室の立ち上げ・運営	1.5時間×2回
県西	市町村	一般市民向け講演	ダイバーシティ、多文化共生社会づくり	2.0時間
県北	市町村	一般市民向けやさしい日本語講座	多文化共生講座におけるやさしい日本語の講義	2.0時間

地域日本語教育コーディネーター活動

コーディネーターが個別に地域日本語教育に関する課題を調査・把握し、その解決策を検討し県に提案する。県から活動依頼を受け実践を行い、その振り返りと得られた知見等を事業に反映させる。



令和7年度の活動

課題	対象者等
受け入れ側の視点から見た外国人保護者の子育てをめぐる諸課題について	行政、外国人保護者
子育て中の外国人への支援	子育て中の外国人、日本語教室
幼稚園職員対象やさしい日本語講座	幼稚園
保育関係者向け「やさしい日本語講座&交流会」の実施	幼稚園、子育て支援団体、外国人保護者
地域・警察・外国人・住民をつなぐ～モスクでの警察講話の取組報告～	行政、警察署、外国人コミュニティ

事業の結果

- 外国人も日本人住民と共に安心して暮らせる地域を目指し、「住民による居場所としての日本語教室」、「有資格日本語教師による基礎日本語教育の実施」など、県内で地域日本語教育の取り組みを進めました。
- 令和7年度地域日本語教育コーディネーターの派遣は17件、参加者は大幅に増加しました。
- 日本語教室がない地域は、11町村(R2)から2町(R6)まで減少しました。
- 地域日本語教育を理解した日本語教育人材養成に取り組み、県内の体制づくりを進めました。

課題

- 基礎日本語教育は市町村の主催により実施することが理想であったが、実現には至らなかった。一定の参加者数を集めることや予算措置等が課題と思われる。
- 日本語教師を対象とする地域日本語教育の人材養成研修では、研修終了後の活動の開拓が難しかった。人材の受け皿確保が課題。

可能性

- 地域日本語教育コーディネーター派遣事業は市町村等から多くの申請があった。地域日本語教室の運営、外国人とのコミュニケーションのとり方、多文化共生の地域づくりなど様々なニーズがあった。地域日本語教育コーディネーターの役割は、地域の日本語教育に関する課題に対して、地域のリソースを使いながら解決へと導くことであり、コーディネーター活動が有効な手段として引き続き求められることが期待される。

多文化共生の地域社会づくり

地域日本語教育システム



日本語教育学会(2008)をもとに作成

わが町の外国出身リーダー

田中 カテリネさん (出身国:ペルー/大洗町在住)

(介護施設職員、IBARAKIネイティブコミュニケーションサポーター)

長年、地域で国際交流や国際理解に関する活動に積極的に参加してこられた、カテリネさんにお聞きしました。



▶ ご自宅で地域交流の場をつくっているそうですね。

子どもから大人まで、国籍もアジアのみならず様々、障害がある方の参加まで、誰もが気楽に集まりおしゃべりを楽しみながら交流する場「オアシス・カフェ」を月に1回のペースで開いています。毎回手作りケーキのビュッフェで皆さんをお迎えします。2025年10月に記念すべき100回目を迎えました。カフェをはじめたきっかけは、自分が外国人として悩んでいたとき、他にも色々な思いを抱える外国人がいるんだろうな、そういう人同士集まり交流や情報交換できる場をつくりたいと思ったことです。夜勤もある仕事をしていますが、これからも続けていきます。



国籍・年代等色々な人がおしゃべりを楽しみ交流する場「オアシス・カフェ」(ご自宅)

▶ ご自身の悩みとのことですが、背景をお聞かせください。

日本人の夫との結婚を機に30年以上茨城に住んでいます。当初は日本語のよみかきは全くできませんでした。隣組のような地域の慣習、子育て、特に母子保健や就園・就学手続き、PTA活動などは本当にわからないことばかり、言葉・文化の違いに大変苦労しました。自分から進んで日本のことを学ぼう、日本人と交流しよう、自分が外国人だからといって家族に嫌な思いをさせたくないという一生懸命頑張りました。ゴミ捨てルールなども最初はわからず、ママ友や近所の日本人などが親切に教えてくれたことで助けられました。日本に慣れない頃は自分の間違いを人にうわさする人もいました。間接的に自分の耳に入ることが辛かったです。直接言ってくれたらいいのにと思いました。

▶ 他にどんなことがされていますか？

茨城県の事業でサポーターをしています。県からの多言語版のお知らせを自分のSNSで発信します。中にはシェアしてくれる人がいます。このほか、自分が住むまちのために役に立ちたいと思い、町公式SNSをチェックし地域活動に積極的に参加しています。先日はきれいな環境づくりのためクリーンアップ活動(ごみひろい)を行いました。ほかにも、大洗町国際交流協会で理事を務めています。7月11日ペルー独立記念日にちなみ地域の人にペルーの紹介をしたいと考えました。関係者と調整し、町国際交流協会主催で日本語教室10周年記念「おしゃべり広場」対面イベントを行うことになりました。そこでペルー音楽の生演奏や料理で参加者が親睦を深めました。



クリーンアップ活動(ゴミ拾い)に参加したときの様子

▶ 最後にひとことお願いします。

最近初孫が生まれました。お祝いの習わしなど、できれば自分から義娘に伝えたいのですが日本の伝統・文化はまだわからないことがあるので、こちらから先に「色々教えてね」と伝えました。外国から日本に来れば、知らないことばかり。でも、外国人は「自分の国ではこうだ」ではなく、日本で長く暮らすなら日本のやり方に合わせましょう。わからないことは自分から質問しましょう。



ACROSS CULTURE ここが違っておもしろい!

ニコラス・トゥツリ

茨城キリスト教大学

私はニコラス・トゥツリと申します。私の出身はイタリアです。今年の9月で24歳になりました。国立ミラノ大学外国語文化研究科現代言語専攻の大学院2年生です。高校の頃から日本に興味があり、日本文化や歴史に熱中していました。だから、日本に来るのは本当に憧れていました。そして、私の夢は日本を訪れることに限らず、日本の生活をしっかり経験することでした。

5年間日本語を勉強していたので、この最後の年にミラノ大学から選ばれて、茨城キリスト教大学に留学することになりました。私の大学では、毎年1年間日本に行くための留学公募を行っています。留学先は茨城キリスト教大学だけでなく、東京や関西の大学も候補としてありました。日本のイメージを考えると、まず思い浮かぶのは東京なので、東京にある大学の留学生に選ばれたかったです。そのため、茨城キリスト教大学に決まった時は、少し残念に感じました。それでも、この機会をいただけたことには感謝していま

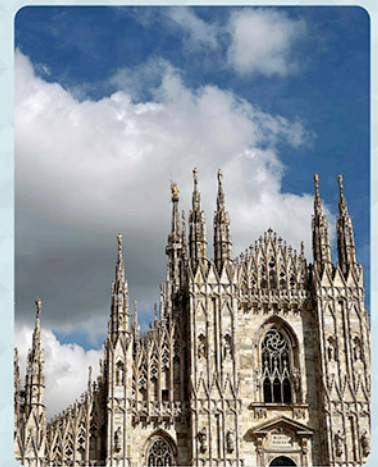


日立市

が私には合っていると思います。

日本とイタリアの違いは数えきれないほどあります。最初は日本のマナーやルールを知らずに間違えてしまうことが少し怖かったです。例えば、お辞儀をするべきタイミングが分からず、難しかったです。また、

イタリア人は「すみません」よりも「ありがとう」をいつも使います。これまで体験した限りでは、イタリア語で「ありがとう」と言う場面の多くは、日本語では「すみません」が使われます。難しそうに見えるかもしれませんが、日本人はこういうことを大切する人々なので、自分も



ミラノ

頑張っって慣れることができました。でも、私にとって、やはり最も大きな違いは食べ物だと思います。両方の国がそれぞれの料理の文化をととても大切にしています。一番大きな違いはお米を食べる習慣だと思います。ほとんどのイタリア人は毎日パスタを食べています。何百種類のパスタやソースがあります。確かにお米もよく食べますが、日本人ほどではありません。

私は将来の夢を決めかねていましたが、イタリアで授業を受けているうちに、研究の道を更に続けたいと思うようになりました。大変な道ですが、大学院卒業後に博士課程に進むつもりです。もし博士号を取得できれば、大学の先生になることを目指したいです。そして日本の大学とイタリアの大学の架け橋になりたいです。

茨城キリスト教大学での素晴らしい経験に感謝しながら、これからも努力を続けたいです。



東京にて





地球だより

News from the earth



ゴールドとカカオの国、西アフリカのガーナは親日国

西アフリカ・ガーナで旅行代理店を経営 栃木 加代子(下妻市出身)

初めまして!私は、ガーナ人男性との結婚を機に、西アフリカのガーナに1998年11月に移住しました。初めてガーナの地を訪れたのは、1990年で、赤土の道路がデコボコしていて、大きく揺られながらの移動が慣れていない自分には辛かったのですが、「ローラーコースターみたいだろう?」と楽しそうに笑っている周囲の大らかさが、とても心地良く感じられました。

このガーナに最初に足を踏み入れた日本人は、なんと旧千円札でお馴染みの「野口英世博士」であり、博士がその生涯の幕を降ろした土地でもあります。野口博士の偉業を称えて日本政府の支援で建設された野口記念医学研究所は、エボラ出血熱や新型コロナウイルスといった感染症と最前線で戦い、ガーナのみならず西アフリカ全体を守ってくれました。ノグチを尊敬し、日本車とアニメを愛し、日本を特別な国として親しみを持ってくれている穏やかでスローな国で、試行錯誤の末に旅行代理店を立ち上げまして、ガーナ人高校生の夏の日本研修旅行を20年以上続けております。

ガーナは、1957年3月6日に独立するまでは、ゴールド・コーストと呼ばれていました。日本では、チョコレートの原料であるカカオの方が有名かと思いますが、金の産出量はアフリカで1位、カカオの生産では、世界第2位にランクされており。季節は雨季と乾季のみで、年間通して美味しいフルーツ類が簡単に育てられますので、アフリカというと「飢饉・飢餓」というイメージでしたが、見事に覆されました。物欲さえ捨てられれば、楽園!と思いつつ、悟りきれないで、あくせく働く毎日です。是非、ガーナにお越しくださいませ!



20年以上続けているガーナ人高校生の日本研修旅行



首都アクラにある野口英世博士展示室



会社が運営する農園で育つカカオ



民族衣装での家族写真

県だより

News from Prefecture



多言語による医療機関受診時のサポートを実施しています

茨城県保健医療部医療局医療政策課 主事 田仲 里帆

県では、外国人患者及び医療機関等が相互に安心して受診・診療できる環境を整備するため、多言語によるサポート事業(無料)を実施しています。

外国人の方向けには、医療機関を受診する際の相談サービス「IBARAKI Multilingual Medical Helpline」がございませ。英語やベトナム語、中国語など33言語で、医療機関の案内や予約、受診前の相談等を行っています。提供時間は平日9時から17時で、申し込みフォームに必要事項を入力して送信し、届いたメールのURLからインターネット電話をかけることで利用可能です。

また、急な病気やケガで救急車を呼ぶべきか迷ったときは、24時間365日対応の「救急電話相談(おとな#7119・子ども(15歳未満)#8000)」をご利用ください。こちらは21言語に対応しており、看護師等の専門家が電話でアドバイスいたします。

県内の医療機関及び薬局に対しては、「多言語遠隔医療通訳サービス」を提供しています。利用登録を行った機関(2026年2月28日時点で398機関)において、電話やビデオにより、医療に特化した通訳サービスが利用できます。受付や会計、医師による診察など様々な場面で活用いただいております。日本語に不慣れな外国人の方も安心して医療機関等を受診できる体制を整えております。

県ホームページでは、外国人の方向けに医療機関の受診に関する情報を発信しています。「IBARAKI Multilingual Medical Helpline」の申し込みフォームや多言語のチラシ、「多言語遠隔医療通訳サービス」の利用登録機関リストも掲載しておりますので、ぜひ右の二次元コードからご確認ください。



IBARAKI Multilingual Medical Helplineチラシ(英語)



県ホームページはこちら

for you...

JICA海外協力隊 2026年春募集のお知らせ

途上国で国際協力活動をするJICA海外協力隊を募集しています。

募集期間は、2月27日(金)～4月15日(水)。

詳細▶



JICA茨城デスクでは個別相談を行っています。JICA海外協力隊参加経験のあるスタッフが皆さんの疑問や不安にお答えします。ご関心のある方はぜひご利用下さい。

お問合せ先▶



問合せ先

JICA茨城デスク((公財)茨城県国際交流協会内)
国際協力推進員 勝村
電話番号 029-241-1611
Eメール jicadpd-desk-ibarakiken@jica.go.jp



賛助会員を募集しています!

当協会では、茨城県に在住する外国人の皆様が安心して生活できるよう、多言語による相談事業や情報提供などを実施し、外国人の皆様にも住みよい地域づくりに努めています。また、より多くの県民の皆様が外国の方々と交流し相互理解を深める機会を提供するために、留学生や在住外国人の方々、交流団体の皆様と連携し、様々な交流事業も展開しています。

皆様からのご支援のもと、さらに充実した活動を続けて参りたいと存じますので、賛助会員へご加入いただき、お力添えください。

会員になると、機関紙「ふれあい茨城」の送付、各種イベント等情報の提供、協会施設の優先利用、提携旅行社の割引などの特典があります。

また、賛助会員は、公益法人への寄付として申告により所得税や法人税の優遇措置の適用を受けることができます。

皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。



賛助会費	団体会員	1口 10,000円(1口以上)
	個人会員	1口 3,000円(1口以上)

※賛助会特典、税金の優遇措置の詳細については、当協会HPをご覧ください。

令和7年度 団体賛助会員(令和7年12月末現在)※敬称略

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 株式会社旭物産 イガラシ綜業株式会社 石岡商工会議所 いばらき印刷株式会社 茨城グローブシップ株式会社 一般社団法人茨城県医師会 公益財団法人茨城県開発公社 茨城県火災共済協同組合 茨城県観光物産協会 茨城県行政書士会 一般社団法人茨城県経営者協会 一般財団法人茨城県建設技術公社 茨城県市長会 社会福祉法人茨城県社会福祉協議会 茨城県商工会議所連合会 茨城県商工会連合会 茨城県信用組合 茨城県信用保証協会 茨城県青年海外協力隊を育てる会 茨城県世界青少年コミュニケーションクラブ(WYCCI) 茨城県中小企業団体中央会 茨城県町村会 茨城県日中友好協会 茨城交通株式会社 株式会社茨城ポートオーソリティ 茨城町国際交流協会 株式会社茨城読売IS 鹿島埠頭株式会社 鹿島臨海鉄道株式会社 株式会社要建設 Global Exchange Education 株式会社光和印刷 古河市国際交流協会 国際ソロプチミストつくば JA茨城県中央会 | <ul style="list-style-type: none"> 株式会社常陽銀行 常陽トータルサービス株式会社 昭和建設株式会社 鈴縫工業株式会社 関彰商事株式会社 株式会社高野高速印刷 社会医療法人 達生堂 城西病院 筑西市国際友好協会 中国武術茨城推進協会 チョッサラ 株式会社筑波銀行 株式会社つくば研究支援センター 電機連合茨城地方協議会 那珂市国際交流協会 日本原子力発電株式会社東海事業本部地域共生部 日本語学校つくばスマイル 日本語ゆめラボ 日本労働組合総連合会茨城県連合会 ヌーベルアーヂ株式会社 ヌーベルキャリア株式会社 ヌーベルメディア株式会社 ハンサラ 常陸大宮市国際交流協会 日立商工会議所 広沢商事株式会社 フレンドリーあんず フレンドリージャパンワールド 水戸市原国際交流ふれあいの会 水戸商工会議所 メサフレンドシップ 株式会社ライフサポート山野 株式会社ルックアット 国際交流おもてなし「瑠璃の会」 |
|---|---|

計68団体

皆様のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

バナー広告募集中!

当協会ホームページのトップページにバナー広告を掲載することができます。国際交流や多文化共生等に興味がある方や、生活情報などを求める外国籍の方々に多く閲覧されている当協会のホームページを通して、あなたの会社や事業をPRしてみませんか。

なお、バナー広告料収入は、協会の様々な事業に有意義に使わせていただきます。





第35回外国人による日本語スピーチコンテストを開催しました



2月14日(土) サ・ヒロサワ・シティ会館小ホールにて、第35回外国人による日本語スピーチコンテストを開催しました。当日は、多くの観客にご来場いただき、会場は大いに盛り上がりました。

このコンテストは、県内で生活する外国人の皆さんが日本・茨城に暮らす中で感じたこと、自国の紹介、日本と母国との文化の違いなど、国際理解をテーマにした内容を日本語で発表し、異文化理解を深めることを目的としています。

今年度は、17か国61名の方から応募があり、選考の結果、8か国から、男性5名女性10名の計15名が出場しました。出場者の皆さんは、コンテストに向けて熱心に練習を重ねてきたようで本番前は、緊張した表情も見られましたが、司会者によるスピーチ前の質問で気持ちがほぐれリラックスして発表できたようでした。

異なる文化背景を持った出場者が、日本での体験をもとに語るスピーチは、どれも興味深く、会場の観客も引き込まれていました。茨城県には、様々な国の外国人が暮らしており、今回のコンテストは、色々な国の文化や考え方を学べいい機会になったと思います。

また、スピーチの後、キルギス民族舞踊と西塩子の回り舞台保存会のアトラクション披露があり観客から拍手喝采の嵐となり、出場者・観客共に楽しんでいる様子でした。

今年度は、16の協賛企業・団体から素晴らしい賞品をご提供いただき、発表者全員に各賞が授与されました。

上位入賞者は、以下の通りです。

賞	受賞者・タイトル
茨城県知事賞	ヌルファアラナタシャ ピンティラウブ「かりかりはどこ？」
茨城県議会議長賞	フィン ティ ゴックチャム「私のハイブリッド謙遜スタイル」
茨城県教育長賞	ジョウ ガネイ「たった一言で変わった私の国際理解」
ひばり賞	イム ソヨン「おもてなし」

+若人賞・日本語ボランティア賞

市町村国際交流推進組織連絡会議(研修会)を開催しました

「今こそ新たに！市民～市町村国際交流推進組織～行政間の連携・協働のチカラ」と題し、1月20日(火)午後、水戸市内の会場で、講師に松本義弘氏((一社)国際多文化研修ラボ代表理事)を迎えて、講義とグループワークを行いました。地域づくり、多文化共生では、市民、国際交流協会、行政等に何が期待され、互いにどう連携・協働すればよいか?について、議論の仕方やポイント、効果的・効率的な実践などに向けて、29名の参加者同士一緒に考えました。

参考 <https://www.ia-ibaraki.or.jp/post-8406/>

令和7年度 国際理解教育講師等派遣事業 (ワールドキャラバン)

ワールドキャラバンとは

県内の学校や、生涯学習関係機関、並びに国際交流団体等が国際理解の促進を目的とした事業を行う際に、外国人等講師や参加型学習のためのファシリテーターを派遣する制度です。参加者に、外国人と直接対話する機会や、開発教育のワークショップ等を体験する機会を提供することによって、国際理解を深め、国際社会で活躍できる人材の育成を図ることを目的としています。昨年度同様、対面交流と並行してオンライン交流も実施しています。

今年度のワールドキャラバンでは、県内の小・中・高・特別支援学校、生涯学習団体等に対し、54団体・71件(実施予定含む)の外国人講師派遣を行いました。



参加団体からは、「他国の文化に触れることは、自国の文化を改めて見つめ直すきっかけになるのだと実感しました。今後も、このような国際交流企画を継続して実施していきたいと考えています」「講師の方が様々な活動を取り入れてくださり、生徒が最後まで興味を持って楽しく参加することができました」といった感想が寄せられました。

また、外国人講師の皆さまからも、「日本の学生たちの新鮮な反応を通じて、自分自身の文化を改めて発見できました」「今回の経験をきっかけに、今後も様々な世代の方々と交流し、相互理解を深めていきたいと思いました」などの前向きな声が寄せられました。

県内では在留外国人数が増加しており、地域や学校で海外ルーツを持つ方々に関わる場面も広がってきました。本事業は、多様な背景を持つ人々が互いの文化を理解し、共に学び合う大切なきっかけとなるものです。異文化理解および交流を深める場として、ぜひご活用ください。

令和8年度の派遣申請等に関する情報は、準備が整い次第、当協会ホームページに掲載します。ご興味のある方は、どうぞお気軽にお問い合わせください。

【アフガニスタン地震被災者のため義援金募集】の結果について

(公財)茨城県国際交流協会は、NGO茨城の会とともに、アフガニスタン地震による被災者を支援するための義援金を募集したところ、多くの皆様から義援金をお預かりすることができました。援助活動を実施している団体等に、被災地での活動の有無や活動内容及び今後の資金需要などを調査のうえ検討した結果、下記の団体に寄付させていただきました。募金にご協力をいただきました多くの皆様方に厚く御礼申し上げます。

■義援金額 31,345円

■寄付先 日本赤十字社茨城県支部 31,345円

【インドネシア豪雨災害被災者のため義援金募集】の結果について

(公財)茨城県国際交流協会は、NGO茨城の会とともに、インドネシア豪雨災害による被災者を支援するための義援金を募集したところ、多くの皆様から義援金をお預かりすることができました。援助活動を実施している団体等に、被災地での活動の有無や活動内容及び今後の資金需要などを調査のうえ検討した結果、下記の団体に寄付させていただきました。募金にご協力をいただきました多くの皆様方に厚く御礼申し上げます。

■義援金額 89,635円

■寄付先 特定非営利活動法人 AMDA 89,635円